

式辞

少しずつ暖かさを増す日差しに、確かな春の訪れを感じる季節となりました。

本日ここに、PTA会長 八幡洋行 様、城山会会長 谷村文男 様、隠岐高等学校魅力化コンソーシアム会長 野邊一寛 様 をご来賓としてお迎えし、多くのご家族の皆様にご臨席いただき、令和3年度 島根県立隠岐高等学校 卒業証書授与式 を挙行できますことに深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

普通科 第73期、商業科 第57期となる59名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう。

教職員を代表し、皆さんに心よりお祝いを申し上げます。

皆さんの高校生活は、平成31年4月、世の中が平成から令和に変わろうとする大きな歴史的転換点からスタートしました。しかし、二年前からはじまった新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、たいへん厳しい学校生活を強いられることとなりました。一ヶ月間に渡る臨時休業、部活動の各種大会の中止、関西研修旅行の中止など、皆さんが高校生活に期待していた様々な機会がなくなってしまったことは、やむを得ないこととは言え、残念で悔しい気持ちになりました。学校の責任者としてもたいへん申し訳なかったと思っています。

活動を制限された中での高校生活ではありましたが、皆さんは落ち着いて冷静に対処し、工夫をして問題を乗り越えてくれて、今日の卒業式を向かえることができました。この間、一生懸命に努力してきたことは、今後の皆さんの人生の大切な基盤になるものと信じています。

卒業は、高校生活の終わりの時であるとともに、新たな人生への旅立ちの時でもあります。今日の旅立ちの時にあたり、私から二つのことを伝えたいと思います。

一つ目は、これからの社会を生きていく上で「真実を見極める力」を働かせてほしいということです。

私たちは、これまで経験したことのないコロナ禍において、社会に溢れる情報の中から必要な情報を選択して考え、判断しながら行動してきました。その中で学んできたこともたくさんありますが、一方で間違った情報に振り回されたり、マスコミの上辺だけの報道や人の意見に不安を煽られたりすることもしばしばありました。この時代においては、本当に必要な情報を正しく見つけ出すことが、いかに大切かと言うことを強く感じた期間でもありました。

また一方で、私たちが生きる社会は、AIとロボットに従来の仕事が奪われる時代にもなりました。経理事務はコンピューターがやってくれ、製品は無人工場でロボットが作ってくれます。データはセンサーによって自動的に集められ、ビッグデータ解析によってマーケティング方法もAIが教えてくれます。これからの世の中において、私たち人間は何をしたら良いのか、AIにできないことは何かを真剣に考えなければならなくなっています。

ここで求められるのは、「考える力」と「見極める力」なのです。五感を働かせ、知性をフル回転させ、私たち人間にしかできないことをしっかりと果たしていかなければなりません。

高校生活をとおして皆さんが取り組んできた探究学習は、まさに「考える力」と「見極める力」を身に付けるための学習であり、これからの時代を生きていくために必要なスキルを身に付ける学びでありました。何が課題なのかを考えること、答えのない課題に一人の人間としての感性を重ねて考えることは、これからも皆さんが、さらに学びを深めていかなければならないことでもあり、それが「真実を見極める力」になるのです。

人間としての尊厳を大切に、自分にしかできない社会での役割を果たしながら、夢を追いかけられる人生であってほしいと心から願います。

二つ目は、「隠岐の島を大切に思う気持ち」を持ち続けてほしいということです。

私たちは日々の生活の中で、自分がすばらしい環境にいることを見失いがちです。家族がいること、友達がいること、心配してくれる人がいること、帰る家があること、ご飯が食べられること、お風呂に入ることができること、当たり前前の方がどんなに尊く、普通のことがどんなに美しいかを人はよく忘れていきます。そして、それは私たちそれぞれのふるさとの姿でもあります。

この卒業とともに、ほとんどの皆さんがこのふるさと隠岐の島を離れます。人の流れは隠岐の島から本土へ、また全国へと、ふるさととの距離を遠くしていきます。年を重ねれば重ねるほどに、前を見ることを要求され、本当の自分を見失ってしまうこともあるかもしれませんが、自分を高めるためには原点に立ち戻り、自分を見つめ直すことも必要です。時には隠岐の島のことを思いだし、決して忘れることのないように、人生を積み重ねていってください。そして、少し人生に余裕ができたとき、いつの日か、ふるさとに対して自分のできることを考える、そんなふるさとを大切にする人であってほしい。皆さんに託したいのは「隠岐プライド」です。

皆さんがこれから踏み出す社会は、立ち向かうべき課題は山積しています。しかし一方で、広く世界を、また歴史を見渡せば、私たちは恵まれた時代に生きているとも言えます。そのことに感謝し、強い意志と誇りを持ち、一人一人が幸せな人生を歩んでくれることを期待しています。

最後になりましたが、ご家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。お子様の高校卒業という大きな節目を迎えられたことに心から敬意を表しお祝いを申し上げます。三年間、本校での教育にお力添えをいただき、本当にありがとうございました。

今、卒業を向かえた子ども達の背中には、ご家族の皆様の目には、どのように映っているのでしょうか。眩しく感じていらっしゃるかもしれません。まだまだ頼りないとお感じかもしれません。しかし、少しずつ独り立ちしていく子どもに、親としてできることは、だんだん少なくなっていくと思います。手を差し伸べたいけど、本人の力で乗り越えるしかないといった局面も増えてきます。これから子どもたちは、大空に羽ばたいていきますが、時として雨に打たれ、風の冷たさに凍えて、暫し翼を休めに隠岐の島に帰ってくることもあるでしょう。その時に心からの笑顔で迎えらるよう元気であることが親の務めであると思います。いつまでも元気でいてあげてください。

本日、隠岐高校を卒業する皆さん。皆さんは私たちにとって、これからの社会を担ってくれる希望となる存在です。世界の、日本の、島根の、そしてふるさと隠岐の島の、また家族の希望として元気に前に進んで行かれることを願っています。

今日のこの佳き日、59名の卒業生の、限りない成長と幸福を心から祈念して、式辞といたします。

令和4年3月1日

島根県立隠岐高等学校 校長 陶山裕史